

[≪前のページへ戻る](#)

2016年東京都高等学校駅伝大会 結果報告

総合成績

参加校 100校

順位 44位 (①48位→②45位→③46位→④45位→⑤43位→⑥47位→⑦46位)

タイム 2 : 30'26



1区 10000m 木村 誠之 (高2) 区間タイム35'01 区間順位 48位



1区を走った木村です。

去年の駅伝の感想で「来年は桐朋記録を出したい」と書き、それに向けて自分なりの努力を積んできました。冬はとにかく長距離を走り込み、春から夏のトラックシーズンは部活でスピード練習をしつつ、冬に付けた体力を落とさないよう自主練で昼休みにジョグをして、秋の新人戦の後は再び長距離を走り込んできました。その甲斐もあって、駅伝のメンバー選考のときの5000mでは良い結果を出せて自信も付いてきました。

今年の駅伝は考查期間中ということもあり、意識を完全に駅伝に向けることは出来ませんでした。調子を落とすことなく割と良いコンディションで本番を迎えられました。当日は、去年に8kmを走っていたので無駄な不安・緊張は無くスタートしました。

初めの1kmは少しオーバーペースになってしまいましたがまだ体・気持ちに余裕があり、4000～5000m位までは自分の走りができていました。しかし5000mを過ぎた頃からだんだん脚が動かなくなってゆき、7kmでゴールの前を通り過ぎる時には気持ちまで折れてきて、本当に走るのをやめたくまりました。また、自分の走っているスピードから、時計を見ずとも、タイムが目標としていた33分台には届きそうにないと思いました。それでも沿道の声援を受けたり後に待つ仲間のことを考えたりして、ここで止めてはいけないと思って何とか走り切りました。ゴール直後にぶっ倒れて梅本

にタイムを聞いて、35分かかったと分かったとき、後悔とも落胆ともつかない気持ちになり、何より自分のあとを走る仲間にしり込みになりました。

その後、先生の言った「1区で全てが決まる」という言葉の通り、最低でも切ると思っていた2時間27分は疎か、30分を切ることも出来ませんでした。一年間準備してきたことがこの一瞬で、このような結果で終わってしまい、ただただ呆然としていました。全体のミーティングをした後に、中長のミーティングを始めると、急激に悔しさが込み上げてきました。先生から言葉を求められると、自然と涙が出てきて、こんなに悔しいのなら今まで出来たことは沢山あったのに、と一層後悔の念に駆られ、それだけ自分が駅伝に全てを懸けていたことを再認識して、本当に悔しくなりました。そして、後輩にはこんな思いをしてほしくないと、心底思いました。

駅伝が終わった後は、これから何をすべきなのか分からず鬱々としています。何はともあれ、応援の力は確かに感じてそのお陰で、期待を裏切ってしまったいましたが、何とか走り切ることが出来ました。応援ありがとうございました。

2区 3000m 平松 真洋 (高1)

区間タイム 10'16

区間順位 48位

2区を走った平松です。

中学時代に先輩方と駅伝を走った時は目標に達することなく終わったので、今年こそはと思い臨んだのが先日の駅伝でした。今年も去年よりも層が厚く、去年の記録はもちろん桐朋記録にも迫れるのではないかと期待の声もあり、チームとしてもそれなりの手ごたえを持って当日を迎えられたように思います。

思い返すと、今年に入って私自身は陸上とうまく向き合えずにいるシーズンを過ごしてきました。正直なところ、中三の駅伝を走り終えてからというもの仲間も減っていくなか、目標を見出せないままただ試合をこなしていくだけの日々が続きました。しかし、そんな悶々とした日々を送るうちに秋が近づき、次第に駅伝に出たいという気持ちが強くなっていきました。そして9月に入ってからは駅伝で走れるだけの体力をつけるよう心がけ、積極的に距離を踏み本番に備えました。

レース中はあれほど飛ばさずに走ろうと決めていたにも関わらず、襷を受け取った途端、前を追うことに必死になり最低限の走りをする事さえもできませんでした。自分の実力のなさを痛感しています。最後にアンカーが走っている時には幾度となく、もし自分が数十秒速く走っていたらという思いに駆られました。これは自分では悔いの残る結果となってしまったことの表れだと思っています。また、1区から2区の中継では普段からは想像もつかない木村先輩の姿を目の当たりにし、改めて一区の過酷さを知り、来年はチームとしてもっと覚悟を持って駅伝に挑まなくてはいけないと感じました。厳しい結果となりましたが、この悔しさを悔しさのままに終わらせず、来年の都駅伝に向けてより一層日々の取り組みを充実させていきたいです。

最期になりましたが、忙しい時期にも関わらず応援やサポートをしていただき、ありがとうございました。



3区 8107.5m 榊原 裕人 (高1)

区間タイム 28'55

区間順位 48位



3区を走った高1の榊原です。

今年高1にも関わらず1区の次に長い3区を走れたことは自分にとってとてもいい体験になり、またそれと同時に悔しいものにもなりました。今回8キロもの長い距離を走る上で考えていたレース展開としては、前半抑えめにゆったりと入り後半少しずつペースを上げて、少しでも目標タイムに近づけようというものでした。しかし、いざ走ってみると前半ペースを抑えきることが出来ずに予定より早いペースで走ってしまい、結果的に後半ペースを上げることが出来ませんでした。

駅伝当日はコンディションもよくメンタルの面でも前向きに臨んでいたのに今回タイムがのびなかったのは一重に自分の実力不足だと思っています。実際試合が終わって改めて思い返してみると「あそこでもう少しペースを上げられていれば」と思えるような場面がいくつもありそれを実現できなかった自分の走力のなさを痛感しました。今回感じた実力不足は練習量の不足にもつながっていると思うので、今年から長い距離を積極的に走り長距離のレースに対応できるような走力をつけて来年の都駅伝に臨みたいと思います。

最後に朝早くからテントの設営をしてくださった短距離の皆さん、応援してくださった先生方、保護者の皆さん、本当にありがとうございました。

4区 8087.5m 須藤 秀太 (高2)

区間タイム 29'13

区間順位 45位



4区を走った須藤です。

僕は高1の9月末に入部したのですが、その時から「中長ブロックに入ったからには一番大きい大会である駅伝に出場して、良い結果を残したい」と思っていました。高1の頃は僕が入部してから駅伝まで1か月程しかなく、当然のことながら駅伝に出場することはできませんでした。僕は沿道で応援していたのですが、いつも涼しい顔をして走っていた先輩方が苦しそうに必死で襷をつないでいる姿に感動して、駅伝を走りたいという思いはより一層強くなりました。

今回は僕にとって最初で最後の駅伝だったのですが、結果は非常に悔いの残るものとなりました。今回の駅伝でみんなで決めた目標は、「駅伝桐朋記録」だったのですが、結果は全体としては昨年よりも1分近く、個人としても目標としていたタイムよりも1分遅く、やりきれない気持ちで一杯でした。

最初の4kmは自分が理想とするペースでレースを進めることができているのですが、後半になると胸の辺りが痛くなって一刻も早く終わってほしいということしか考えられなくなり、何度も気持ちが切れてしまいそうでした。何度も止めてしまおうかと思うほど、僕にとって過酷なレースでした。何とか走り切ることはできたものの、結果は自分の目標としていたタイムより1分遅く、結果より何より、自分の走りを途中で見失ってしまったことが本当に悔しくて、情けない気持ちで一杯でした。それでも僕が走り切ることができたのは、僕まで必死に襷をつないできてくれた3人、そしてこれから僕がつながなければならぬ3人の存在があったからですし、

もちろんたくさんの応援してくれた方々の存在も僕にとって大きな力となりました。そういったことも含めて、やはりあとから振り返ってみると、本当に素晴らしい環境の中で走っていたのだなあと感じました。

結果は非常に悔しいものとなりましたが、自分を支えてくれるたくさんの方々の存在を改めて感じました。応援して下さいました方々、本当にありがとうございました。

5区 3000m 松本 功 (高2)

区間タイム 10'36

区間順位 51位



5区を走った高校2年の松本功です。

結果としてはチームでは目標を達成することができず個人としても非常に悔しい結果となりました。練習では本番よりも速いタイムで走っていたのですが、ここ一番というときに自分の力を出し切ることができず不本意なまま後の選手に襷を渡してしまいました。自分の実力不足を改めて痛感しました。ただ暖かい声援の中走ることができ力になったのは確かです。ありがとうございます。

自分は中学でも陸上をやっていましたが、正直つまらなく、高校では絶対陸上をやらないと決めていました。しかし桐朋に入り、部員に勧誘されているうちに「もう1回やって真剣に陸上と向かい合ってみよう」。そう思い入部しました。最初は練習に全くついていけませんでしたが諦めず練習をこなしていくうちに記録が伸び、こうして駅伝を走らせてもらうことができました。そして今では陸上に対する考え方も変わり、やりがいがあるなど感じるようになりました。こう思えるのも仲間や顧問の先生方のおかげであり、支えてくれたからこそなのだと思います。この駅伝を通して改めて感じることができました。本当に桐朋陸上部に入って良かったです。この駅伝の悔しさ、そして周りからの支えに対する感謝を噛み締めながらこれからも頑張っていきたいと思っています。最後になりますが本当に応援ありがとうございました。

6区 5000m 伊東 邦泰 (高2)

区間タイム 18'34

区間順位 65位

今回6区を走った伊東です。

まず初めに、テスト真っ只中なのにも関わらず朝早くからテント設営、サポート、応援に携わってくれた陸上部のメンバーの皆さん、試験期間中も練習に付き添ってくださった顧問の先生方、当日応援に来てくださった保護者の方々、本当にありがとうございました。皆さんの支えなしでは7人で襷を繋ぎきることはできなかったと思っています。

駅伝について、まず個人としてですが本当に自分の実力の至らなさを痛感した結果となりました。元々考查中に駅伝があり、難しいコンディションであることは去年から先生に知らされていたにも関わらず万全とはいえない状態であり、なおかつ本番でも自分の気持ちの弱さばかりが先行し、本当にチームメイトの皆に申し訳ない走りをしてしまったと思っています。チームとしても去年の先輩達とは異なり、当初の目標に全く届かず、後輩に来年繋げるような結果でもなく最上級生としての責任を感じざるを得ない大会でした。



自分には"来年"という言葉はもう使えません。今自分に出来ることは今年実現できなかった目標、そしてさらにその上を目指していく後輩の姿を応援することだけです。

長々と書いてしまいましたが、自分たち高2にとってはもう来年の春までしか陸上を続ける期限は残っていないので、この大会で背負った悔しさをバネに再び努力していきたいと思っていますので、応援よろしくお願いします。

7区 5000m 花崎 龍矢 (高1)

区間タイム 17"50

区間順位 48位



高校駅伝で7区を走った花崎です。

今回初めて駅伝でアンカーとして走りましたが、不甲斐ない結果になってしまいました。アンカーを任された当初は自分のゴールした順位がそのままチームの順位になるといったアンカー特有の責任感を感じていました。その一方で、7区は普段トラックで走っている5000mだったため、レースは想像しやすかったです。練習ではアンカーということもあり、ラスト勝負では絶対に勝ちたいという思いから常にラストスパートを意識して走りました。本番当日も緊張し過ぎるということはありませんでしたが、レースでは前半2kmを抑えすぎてしまい、後半ペースを上げきれずに終わってしまいました。レースが終わると前半から速いペースを作っていかなかったことに対し後悔するとともに、結果としても設定していたタイムよりも遅かったため悔しいです。走力面だけでなく、ペース感覚も含めた総合的な力不足を痛感しました。これからは今回の反省を生かして、来年の駅伝では満足のいくレースができるようにしたいです。最後になりますが、応援してくださった皆様ありがとうございました。